



がん診療相談室・がんサロン『ゆい』たより 新春号 令和6年1月

今年は悲しいニュースが続く年明けとなってしまいました。このような状況ではありますが、相談員一同、みなさまが少しでも穏やかな気持ちで過ごせるよう支援をしております。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

希少がん患者さんの診療について

東北大学病院
腫瘍内科 高橋雅信准教授

希少がんとは、人口10万人あたり6人未満が発症する「まれ」な「がん」を言います。骨軟部腫瘍、神経内分泌腫瘍、脳腫瘍、眼腫瘍、十二指腸・小腸がん、褐色細胞腫、副腎皮質がん、胸膜・腹膜中皮腫、尿管がん、皮膚がんなど、計約200種類にわたります。それぞれがまれな疾患であるため、それぞれの疾患にそぐう診断・治療法が確立していない場合が多いです。また、その希少さのためにどの病院・診療科でも診療できるわけではなく、希少がんの種類によって診療できる場合とできない場合があります。まだまだ全国的にも希少がん患者さんへの診療の向上が求められており、2023年から開始した第4期がん対策推進基本計画でも、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す」を全体目標とした上で、「がん医療」の対策の重点の1つとして希少がん（及び難治性がん）への対策が挙げられています。

《当院で実施されている治療や取り組み》

◆当院では以前から各診療科や各職種間の密接な協力のもと、希少がん患者さんへの診療の提供に努めてまいりました。2017年からは希少がんに特化した診療科間カンファレンスを定期的に行い、チーム医療を通して、上記のような各希少がん疾患に関する質の高い診断・治療（外科治療、放射線治療、薬物治療、緩和治療など）を実践しています。標準治療だけでなく、各種の治験や臨床試験も積極的に実施しています。セカンドオピニオンも多くの診療科で数多く行っています。

◆2023年12月1日には、当院で「希少がんホットライン」を開設しました。希少がんホットラインではがん専門相談員（看護師または社会福祉士）が、患者さん・ご家族、一般の方、医療機関スタッフからの希少がんに関するご相談をお受けします。詳細はHPをご参照ください。

<https://www.cancercenter.hosp.tohoku.ac.jp/cmc/hotline.html>

是非ご利用あるいは必要な方がいらしたらご紹介してください。



茶話会開催報告

1/17 (水)、対面では今年度4回目となる茶話会が開催されました。寒さも厳しく前日には積雪もあり、参加者が集まるかと心配していましたが、8名の方にご参加いただき無事に開催することができました。

(他県から来てくださった方もいらっしゃいました！)

相談員の進行で自己紹介を行った後は、参加者のみなさんが率先して発言する形で、日頃抱えている悩みやその対処方法等について、時折笑い声も交えながら和気あいあいと意見交換・情報共有をされていました。次回は3/21 (木) 14時～開催予定です。

(3/20 (水) が祝日のため、1日ずらしての開催となります。参加を検討される方はご注意ください。)



話題の一部をご紹介

- Q. 不安を感じる時はどうする？
- ・歩く、散歩
 - ・瞑想
 - ・なるべく家にいないで外に出る
 - ・美味しいものを食べる

AYA がんイベントのお知らせ

3/2～3/10に開催されるAYAweekに合わせて、当院でも初めてAYA世代(15歳～39歳)の患者さんを対象としたイベントを開催することとなりましたので、お知らせいたします。

日時：3月8日(金) 10時～13時
場所：外来棟B 1階 キャンサーボード室
内容：相談会(がん相談、栄養相談、アピランス)、交流会(茶話会)

詳細はがん診療相談室のホームページにも掲載予定です。お気軽にご参加ください。

